

令和
8
年度

いしばのきまり 2



みなさん、
いっしょに ペンきよう
しましょうね。



ことばのきまり
イメージキャラクター
ことちゃん

表紙 岡崎

カット 幸田

豊橋

新城

浅井 先生
成田 先生
嶋田 先生
大須賀 先生
河合 先生
渡邊 先生
竹本 先生
陽子 先生

もくじ

一	かん字の書き方	1
二	かたかなで書くことば	6
三	気もちをあらわすことば	13
四	丸(。)、点(。)	14
五	主語とじゅつ語	16
六	なかまになることば	25
七	数をあらわすことば	26
八	かん字の読み方とおくりがな	30
九	はんたいのいみのことば	31
十	声に出してみよう	33
十一	同じところのあるかん字、かたかなについて	35
十二	組み合わせたことば	37



一 かん字の 書き方

(一)

かん字の 画

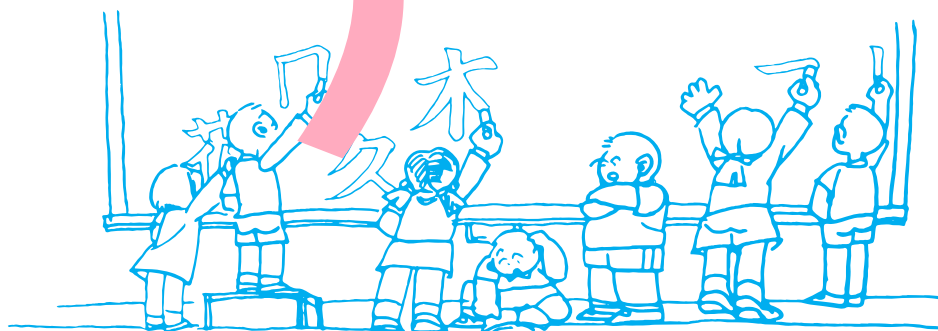
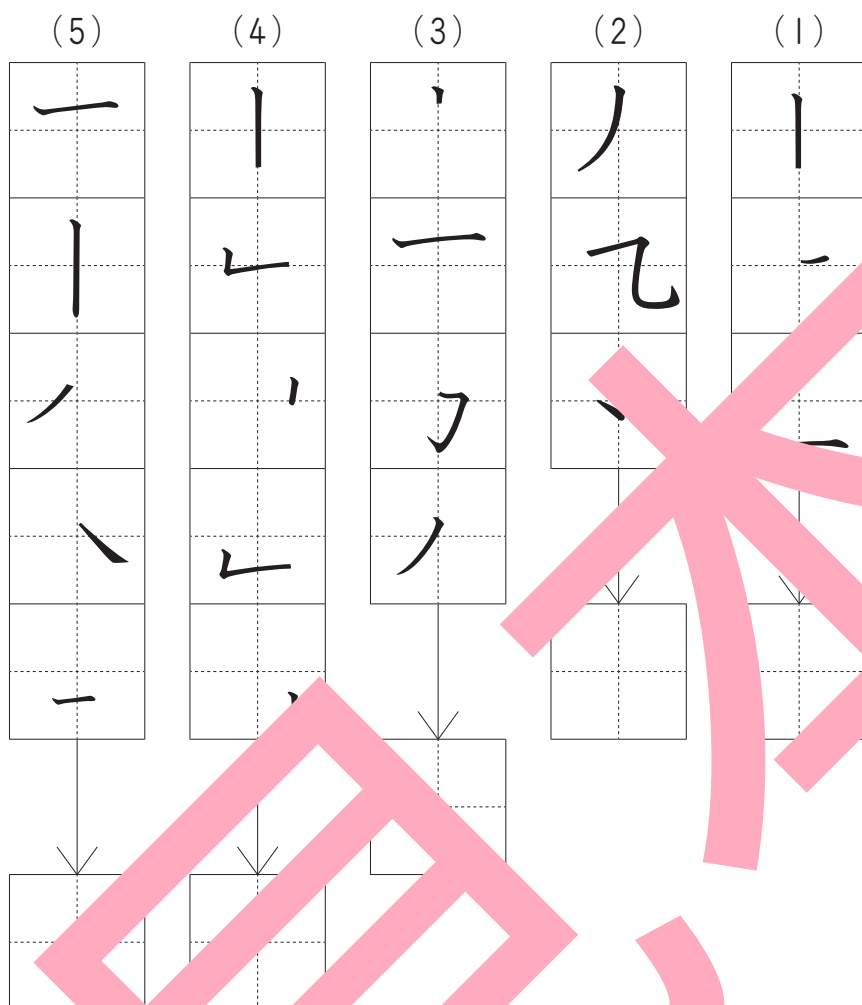
一 上から じゅんに 書いて

くと

なん

いう

かん字に なりますか。



2 つぎの かん字は 何画で けるでしょう。かん字で 書きましょう。

(1)

画

(2)

画

(3)

画

(4)

画



一つの かん字が、何回の とうさで 書く かん字の 線や 点の ことを 数えた 数とその かん字の 画数と います。



3

つぎの
かん字の

画数^{かくすう}を

かん字で
書きましよう。

(13)

足

()

()

画^{かく}

(10)

風

()

()

画^{かく}

(7)

線

()

()

画^{かく}

(4)

紙

()

()

(1)

口

()

()

画^{かく}

(14)

声

()

()

画^{かく}

(11)

学

()

()

画^{かく}

(8)

説

()

()

画^{かく}

()

本

()

()

画^{かく}

(2)

下

()

()

画^{かく}

(15)

校

()

()

画^{かく}

(12)

数

()

()

画^{かく}

(9)

画

()

()

画^{かく}

(6)

町

()

()

画^{かく}

(3)

円

()

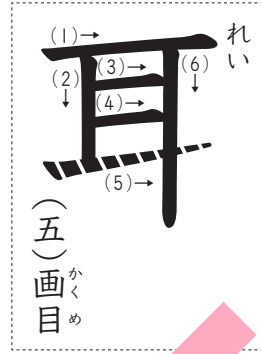
()

画^{かく}



(二) かん字の ひつじゅん

1 つぎの かん字の 点線の 何画目でしよう。 れいを見て 何画目か かん字で 書きましょう。



点 () 画目
王 () 画目

早 () 画目
中 () 画目
下 () 画目
二 () 画目

山 () 画目
金 () 画目
人 () 画目
十 () 画目

雨 () 画目
右 () 画目
水 () 画目
川 () 画目

かん字の 書き方には きまった じゅんじよが あります。この じゅんじよを ひつじゅんと いいます。

- ① 上から 下へ 書いて いきます。 (れい) 三 下
- ② 左から 右へ 書いて いきます。 (れい) 川 竹 人



2 正しい ひつじゅんに ○ をつけましょう。

(7)	(5)	(3)	(1)
入	正	女	車
() ()	() ()	() ()	() ()
ノ	一	く	一
入	下	女	車
入	正	女	車

(8)		(4)	(2)
生	火	五	左
() ()	() ()	() ()	() ()
ノ	ノ	一	一
牛	火	五	左
生	火	五	左

やってみよう



かきかたプリントメーカー



二 かたかなで 書くことは

(一) つぎの かたかなの ことばを えらんで 書きましょう。

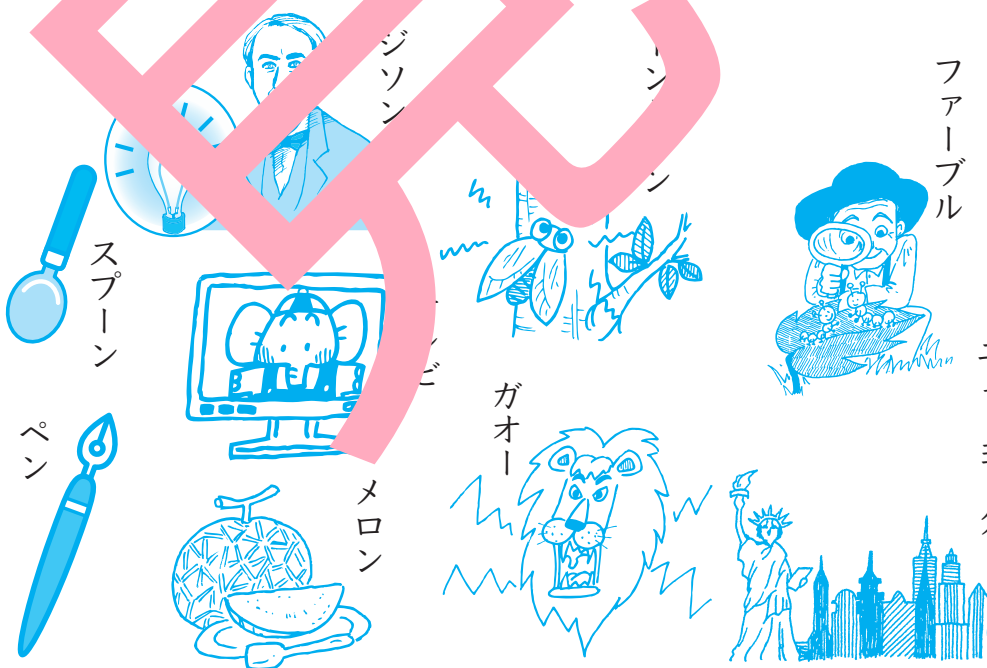
1 外国の 地名

ファールブル

ニューヨーク

2 外国の 人の 名前

3 外国から 来た ものの ことば



4 いきものの 鳴き声なごえ

5 音を あらわす ことば

かたかなで 書く ことばには、つぎの ような ことが あります。

- ・ 外国がいこくの 地名ちめいや 人の 名前なまえ
- ・ 外国がいこくから 来たき ものの ことば
- ・ 鳴き声なごえや 音を あらわす ことば

ホーホケキョ

ブラジル



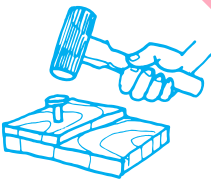
コケコッコー



ーザー



ントン



トライアングル



ケーキ



ワンワン



チリン
チリン



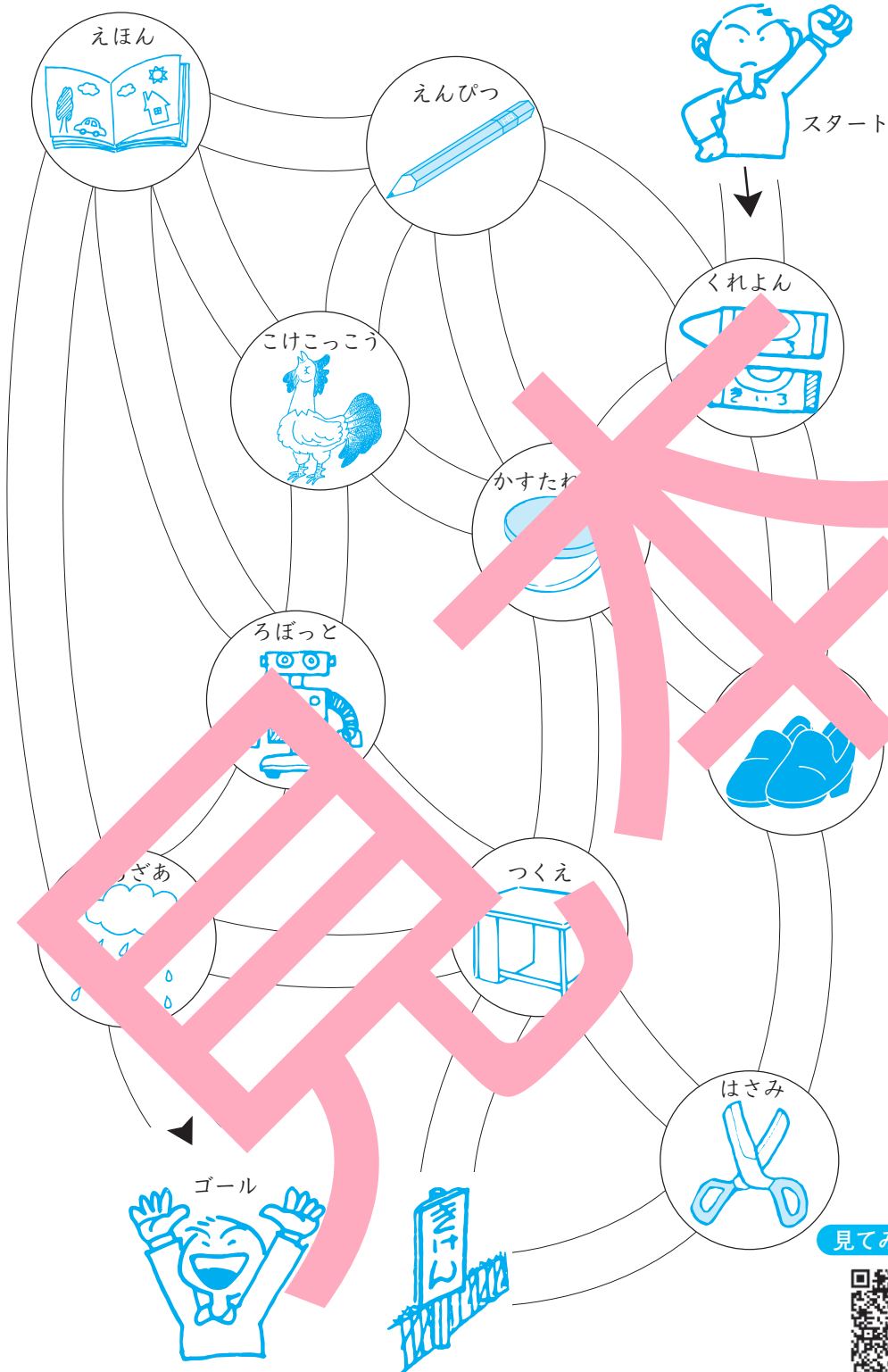
ドンドン



チューチュー



(二) かたかなで書くことばのころをとおって、ゴールまでいきましょう。



見てみよう



NHK for School
ことばドリル
「カタカナでかくことば」





音を あらわす ことばは、かたかなで 書きます。
 ようすを あらわす ことばは、ひらがなで 書きます。

(三) ———— の ことばの 書き方が 正しい 方に ○を つけましょう。

5
 () ()

星^{ほし}が キラキラ かがやいて いる。

星^{ほし}が きらきら かがやいて いる。

3
 () ()

子どもが ニコニコ わらった

子どもが にこにこ した。

1
 () ()

石ころが 池^{いけ}に 落ちた。

石ころが 池^{いけ}に ぼちや と おちた。

5
 () ()

チーンと 鳴る。

チャーンと 鳴る。

4
 () ()

くつが ひかひか 光る。

くつが ぴかぴか 光る。

2
 () ()

電子レンジが チーンと 鳴った。

電子レンジが ちいんと 鳴った。

見てみよう



NHK for School
 ことばドリル

「ぎゅっきゅつ と ぎゅっきゅつ」





かたかなで のばす 音を 書く ときには、「ー」をつかいます。

4

あしたの
体たいいくは、

() ()

プール

プウル

で
およぎま

3

() ()

クリーム

クリーム

が

たっぷりのった

() ()

ケイ

ケエキ

おい

2

ぼくは、

() ()

ノウト

ノート

に

() ()

ボウルペン

ボールペン

で
文字を

書かした。

1

わたしは、

() ()

ジュース

ジュウス

た

() ()

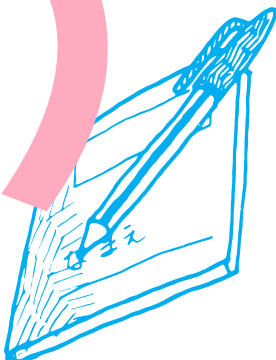
ス

ストロー

で

のみました。

(四) のばして 読む ことばが、正よく 書かいて ある 方ほうに ○を つけましょう。



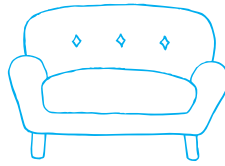


かたかなでは、ア、イ、ウ、エ、オを小さく書きあらわすことがあります。

2



1



ファ

ティ

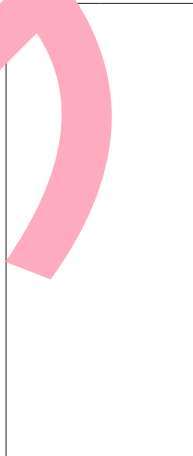
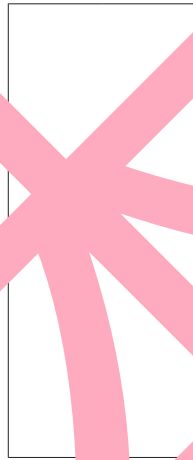
フェ

オ

(五)

つぎの絵は何でしょう。

の中のカタカナを、
つかって書きましょう。



(六) つぎの 文の 中から かたかなで書く ことばを 見つけて — を引き、
□ の 中 に

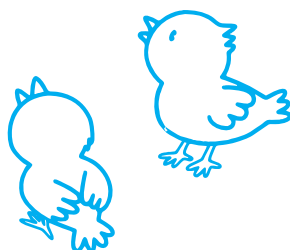
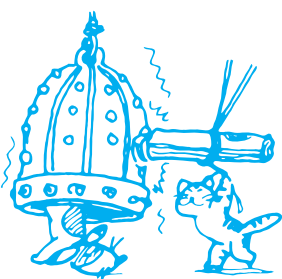
かたかなで 書きましょう。

1 花だんには、ちゅうりつぷの花が、
に さいて いました。

2 ひよこが ぴよぴよと
いました。

3 あめりかから とむさんが やってきました。

4 お寺の かねが ごおんと 鳴りました。



三 気もちを あらわす ぎに つかう ことば

(一) つぎの () に あては ことばを から 一つ えらんで 書きましよう。

1 遠足では どこへ 行くのか

2 友だちが お休み

3 へびが 出て きて ()

4 さか上がりが でき

5 ねがいが かなって ()

くやしい

わくわくする

さびしい

つくりする

くやしい



くやしい、わくわくする、さびしい、びつくりする、
あらわして います。

(二) 気もちを あらわす ことばを さがして 書きましよう。

やってみよう

気もちをあらわすとき
つかうことば



もんだい



こた
答え



四 丸（。）、点（、）、ぎ（、）

(一) 友だちが書いたかんそう文の中に丸（。）か点（、）をつけて、読みやすくしましょう。

よかったね、スー

わたしは

図書室で

イミーは

きょうだいかいなく

ってかわいそうだと思い

ました

まぐろにあったとき

イミーも食べら

しまうかと思ってどきどきしました

でも

ここ

とができてよかったと思いました

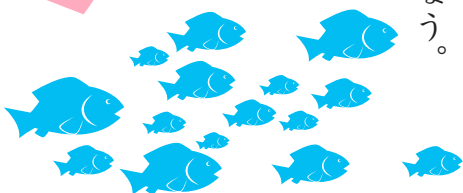
かとうひろみ

をかりました

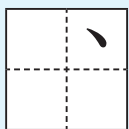
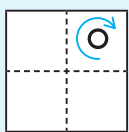
(二) かとうさんのかんそう文に

は、いくつ文がありますか。
数えてみましょう。

つ



文を書くときは、丸（。）や点（、）をつかいます。
丸（。）は、文のおわりにつけます。
点（、）は、文の中のきれ目につけます。





(二) つぎの 二つの 作文に 「(かぎ) を つけましょう。」

おばさんの 赤ちゃん

ぼくと 兄ちゃん

本を 読んで いたら、

て きました。

おばさんの 赤ちゃんが

と言ったので、ぼくは、

男、女、どっち。

と 聞きました。お父さんが、

女の子だよ。いっしょに 見に行るか。

と言って くれました。

ホットケーキづくり

きのう、ぼくは、 楽しい おかしづく

りという 本を 読んで、 ホットケーキ

をつくりました。

フラに きじを 入れると、 お母

さんが ぷつぷつと が 出てきたら、 ひっ

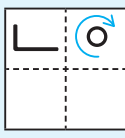
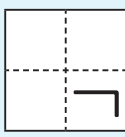
く ぐいして 言えたら、 だから、 ぼくは、 フラ

んを と 見て、 いました。 しばらく

くすくす と 言いました。 なって

ました。

「(かぎ) は、文しようの 中で 会話や、
つけます。 会話文は、 行を かえて 書きます。
「」の中の 文にも。(丸)を つけます。
会話の おわりの。(丸と かぎ)は、同じ ますの 中に 書きます。



い名などを 書くときに



五 主語と じゅつ語

(一) ものの 名前や ことがらの

一 みの まわりに ある もの

(1) べん強に つかう

(3) うんどうに つかう ものの

名前 あらわす ことは

名前

名前

ことがらの 名前を

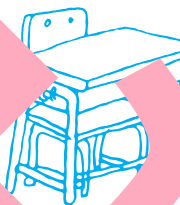
あつめましょう。

(2) 教室に ある ものの 名前

(4) 名前



ものの 名前や、ことがらの 名前を あらわす ことは





「どうする」ということをあらわすことばを「う」と「と」ば「と」といいます。

(5)



(3)



(1)



「絵の ような 「どうする」ということをあらわすことばを、
書きましよう。」

(二) 「どうする」ということをあらわすことば

(6)



(2)



の 中 に





いいいます。

「だれが」

「だれは」

や「何が」

「何は」

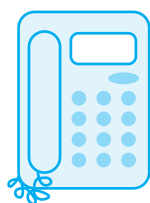
にあたる

こと

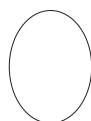
と

話

(文の あたま)と



(三)



に

あてはまる

こと

と

す

の

中

から

えらんで

書

きましよう。

(何が)

(何が)

す

の

中

から

えらんで

書

きましよう。

とりが

電話が

わ

か

が

く

と

く

と

く

と

く

と

く

と

く

鳴く

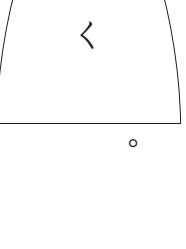
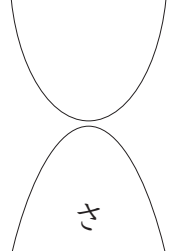
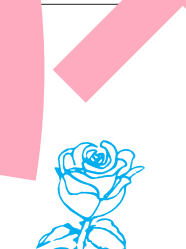
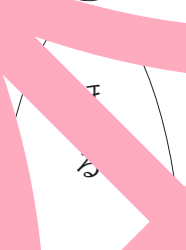
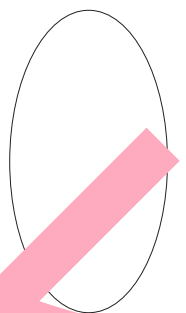
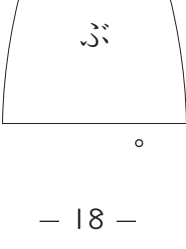
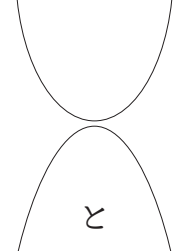
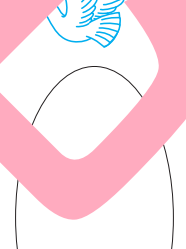
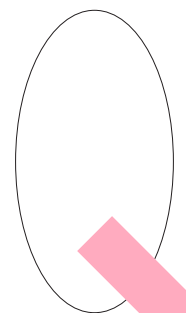
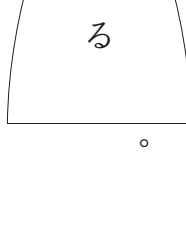
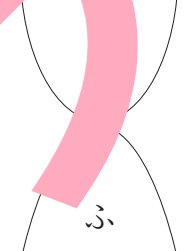
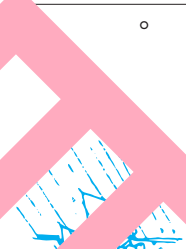
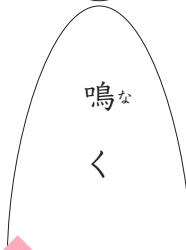
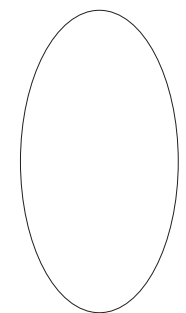
る

る

ふる

とぶ

さく



(四) 絵を見て (だれが) (どう) する に あて まる ことばを 考え、 の 中から えらんで 書きましよう。

(だれが)

(どう) する

兄さんが

兄さんが



兄さんが

兄さんが



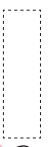
(五)

(何) は (どんなだ)

(どんなだ)



に あてはまる ことばを、



の から

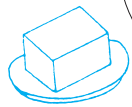
んで

んな

しう

とうふは

お母さん



白い
きれいだ

走る
なげる
食べる
わらう



(ハ) 絵を見て 文を作りました。

(何が) (どうする)

魚が

(だれが) (どうする)

2

もぐる。

(何が) (どんなだ)

3 トマトは

(だれは) (どんなだ)

4

強い。



文は、四つの なかまに 分ける ことができます。

① 何を して いるかを あらわす 文

「だれが (何が) どう する。」

・ 何が 走る。

② 形や ようすなどを あらわす 文

「何が (何が) どんなだ。」

・ ひが は やい。 やんは かわいい。

8

お母^{かあ}さんは

(だれは)

(何^{なん}だ)

7

(何^{なに}は)

(何^{なん}だ)

どうぶつだ。

6

(だれは)

(いる)

いる。

5

(何^{なに}が)

(ある)

ある



③

ものや 人が そこに ある (いる)
ことを あらわす 文

「何^{なに}が (は) ある。」

「だれが (は) いる。」

・ えんぴつが ある。

・ がいる。

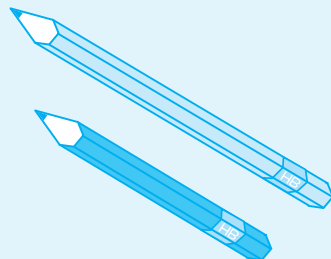
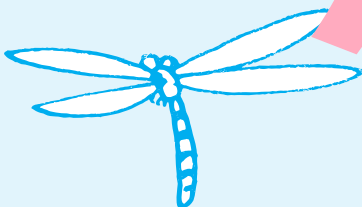
かまかを あらわす 文

「何^{なに}が (は) 何^{なん}だ。」

「だれが (は) 何^{なん}だ。」

・ とんは こゆうだ。

・ 父^{とう}さんは こゆうだ。
先生だ。





(九)

(れい) たいようが まぶしい。
 文を 読んでみると、まぶしい。
 このように、じゅつ語の 何が
 たいようだと 分かります。
 たるところが 主語になります。

線は、文の じゅつ語で
 主語を けて、
 線を 引きましょう。

1 兄は 元気だ。

2 犬が 大声で

3 母は いつも いがしい

4 遠くで 赤ちゃんが なく

5 もうすぐ 日が しずむ。

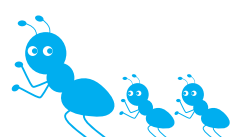
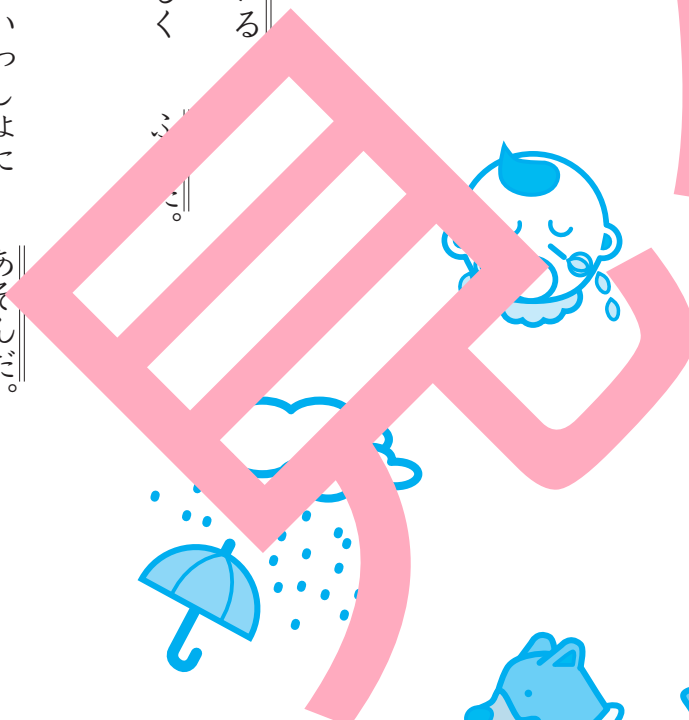
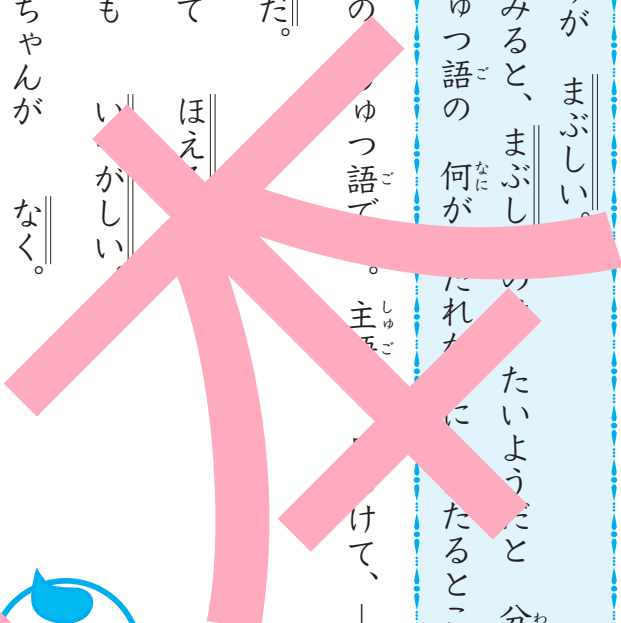
6 今朝、 花が 一りん さいた。

7 すぐそこに ありが たくさん いる

8 ある日、 とつぜん 雨が はげしく ふる。

9 妹が へやで 歌を 歌う。

10 きのお、 わたしは お父さんと いっしょに あそんだ。



(十) つぎの 文の じゅつ語に 線をひきましょう。そして、主語に 線をひきましょう。

1 わたしは わらった。

2 花が さく。

3 クーラーが とつてくる。

4 先生は しょくいん室で 働く。

5 えきで 電車が とまる。

6 いつも 姉は やさしい。

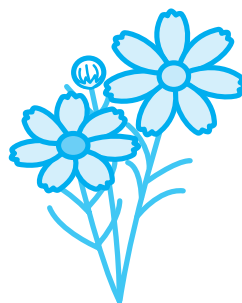
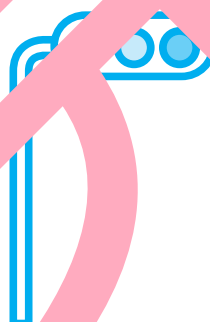
7 今日の 星空は とても うつくしい。

8 もうすぐ しんごうが 青に かわる。

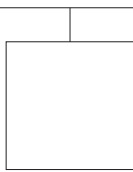
9 きよ年の 四月に、 わたしは 小学校に 入学した。

10 夕日が 山に ゆっくり しずむ。

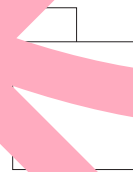
11 今日、 お母さんが 家で ケーキを 作った。



〈家ぞく〉



(自分)



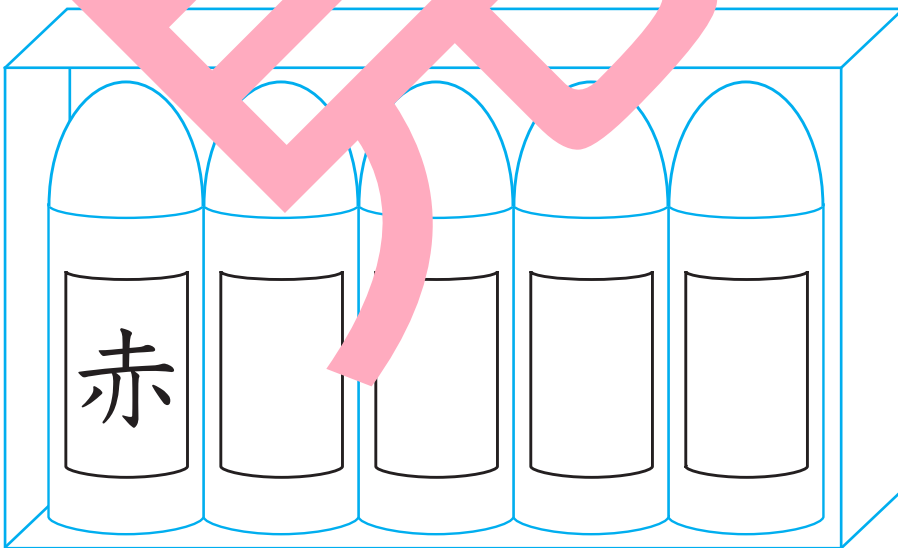
(一)

なにかまになることばを

六 なにかまになること

のうに書きましょう。

のなか



七 数^{かず}を あらわす こと

(一)

に あてはまる こと

中から えらんで 書^かきましょう。

1 ぼくは、えんぴつ

十^{じゅう}

いました。

2 ふでばこに、けしゴム

三

入^いって いました

3 おり紙^{がみ}が 五

足^たりません。

4 ちゅう車^{じゅう}場に、車^{くるま}が 七

と っています。

5 男^{おとこ}の子^こが 三

います。



さい

さつ

まい

本

足^{そく}

き

けん

こ

台^{だい}

人





ものを 数える かぞ ときには、数の かず あとに、ものによって かぞ しまった ことばを つけます。

10 本を 四



かりました。

9 げんかんに、くつが ニ



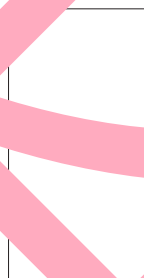
あります。

8 たん生日 じうび が くと、ハ



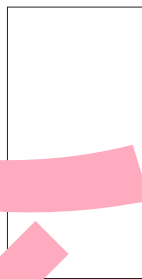
になります。

7 山おくに、家 いえ が



た、いました。

6 ハムスターを ニ



そだてて います。

ちよつと むずかしい 数え かぞ かつた

・ふく

…

・鳥 とり やうさぎ

…

・どの大きなどうぶつ

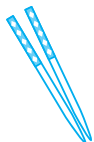
…

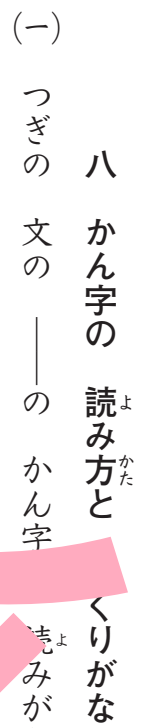
・さみやとうふ

…

・はし

…



つぎの文の――の
かん字

読みがなを
つけましょう。

さか
を
上る。

2

少 し 人 が

あ そ ぶ。 少 ない。

3

ね、
下がる。

はしごを
下りる。

さか^{みち}道を
下る。

へやの
下げる。

もつを
下ろす。

かん字には いくつもの 読み方が あります。下がる「ろく」も、
「下ろす」の 「ろす」などを おくりがなと いいます。おくりがなは かん
字の 読み方や いみを はつきり させます。



(二) かん字の読みがなに気を付けて、おくりがなをつけましょう。

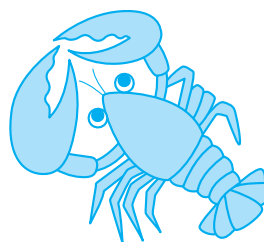
1
 ぼくは 教室きょうしつから 外そとへ
 ぼくは 教室きょうしつから つくえ
 出
 。

2
 川で つかまえた ざ
 草が 生
 ざりがにの 赤ちゃんか
 生
 。

3
 お父とうさんは にもつを トランクに
 お父とうさんは にもつを もって へやに
 入
 。

4
 いえの 明あ
 へやの 中は 明あか
 。

明



九 はんたいの いみの とば

(一)

はんたいの いみを あらわす
から えらんで 書きましよう。

1 大きい

2 右

3 おもい

4 広い

5 みじかい

せまい 小さい
かるい 左 ながい 長い

つぎの — の ことばと はんたいの いみを
あらわす ことばを 書きましよう。

この 本は あつい。

1 この へ あつい。

おちが あつ

山が 高い。

2 ねが

見てみよう



NHK for School
ことばドリル
「はんたいのことば」

十^{こえ}声に出して みよう

(一) つぎのことばを 手を たたいて 言^いって みましょう。

だいこん
すずめ

「だいこん」は 四回^{よかい} 「すずめ」は 三回^{さんかい} 手 たたきます。

(二) つぎのことばは、何回^{なんかい}も 手 たたいて 言^いって みましょう。

また その回数^{かいすう}を かん字で 書^かきましょう。

1 すしや

() 回^{かい}



2 ぬいぐる

() 回^{かい}



3 いしや

() 回^{かい}



ジャン

() 回^{かい}



5 そうめん

() 回^{かい}



6 かつぱ

() 回^{かい}



(三) 声^{こゑ}に 出して、 ちがいを たしかめましょう。

「ほうきで はく」

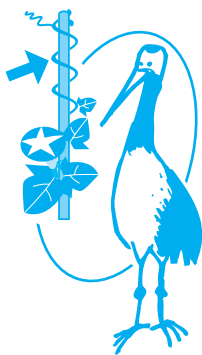
「くつを はく」



二つの「はく」は 音が 一緒ですが、
同じ ことばでは ありません。音の 高さによつて、
ちがう ことばに なります。

(四) つぎの ことばを 声^{こゑ}に 出して、 音の 高さ^{たか}を たしかめましょう。

1 つる



3 あめ



2 いっぱい



4 きろく



音の 高さ^{たか}に 気をつけて読むことができた

よくできた

できた

もうすこし





同じ おな ところの ある かん字は、にたい おな いみをもっている ことがあります。

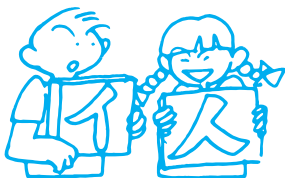
(一)

同じ おな ところの ある かん字

十一 同じ おな ところの かん字、かたちのにている かん字

つめましよう。

7	5	3	1
イ	之	木	言
8	6	4	2
ノ	ハ	ハ	文



(二)

形^{かたち}が

よく

にた

かん字を、

から

えらんで

正しく

書^かきましよう。

6

上

1

字

7

土

2

車

8

欠

3

休

4

里

5

池

走
黒
東
止
体
学
工





十二 組み合わせたこと

①の文と②の文の——を——らべてみましょう。

① 自分の じぶん もつを もつ 帰 かえ

② 自分の じぶん に もつ 帰 かえ

②は、①と同じ おな ことを もつ 帰 かえ しています。

もつ もつ + 帰 かえ → もち帰 かえる

「もち帰 かえる」は二つのことを あ め合わせたことばです。



(一) 二つのことを あ め合わせて一つのことを あ める。

ひろう

+

あつめる



切 きる

+

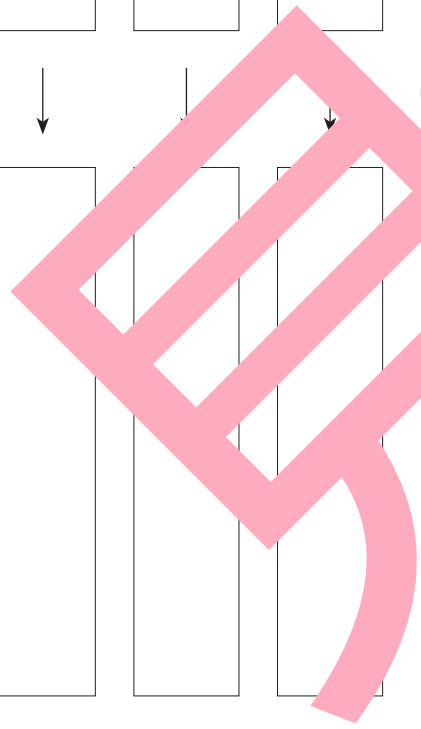
たおす



立つ

+

上がる



(二) ——— の ことばを、組み合くみあわて 一つの ことばを つくりましょう。

1 石を もって 上げる。

2 台だいの上から、こんで 下り

3 うんどう場じょうを 走はしつ 回まわ

4 新聞しんぶんを つんで かさねる

5 雪ゆきが ふって つもる

(三) に あてはまる ことばを

の 中から 選えんじ しょう。

1 小川おがわを

2 はり金を

3 どろを

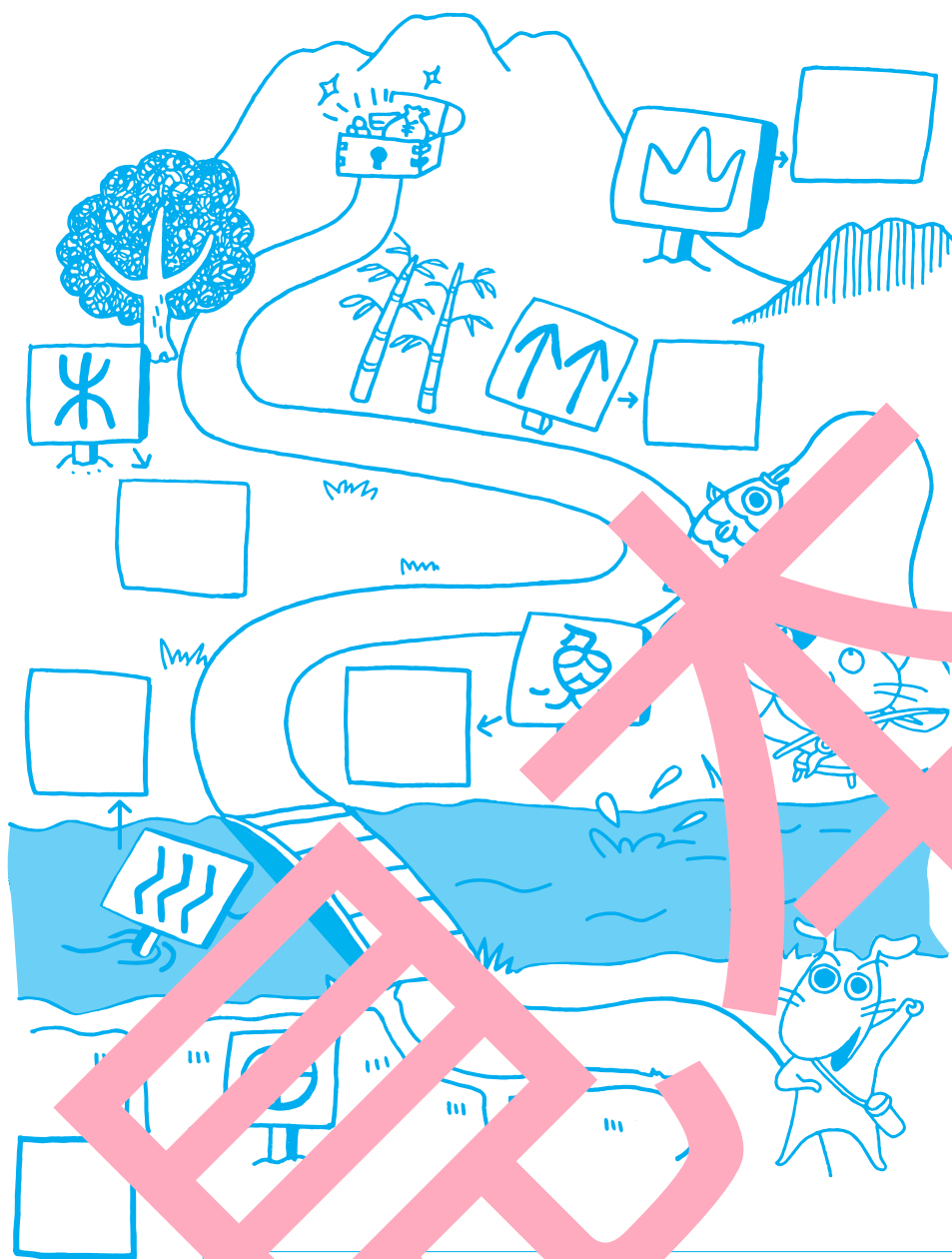
4 おかしを

おわる
とび
つらい
ましよう。



かん字の山のぼり

絵文字をかん字になおして、山のちり上まで行ってみよう。



令和8年版 ことばのきまり 2年

編集 「ことばのきまり」編集委員会
愛知教育研究会

刊行 公益財団法人愛知教育文化振興会
〒444-0868 岡崎市明大寺町字馬場東170番地1
電話 0564-51-4819

印刷 株式会社 岡田印刷

※無断で複写・複製することを禁じます。

※外部ホームページリンク先は、予告なく変更・削除されることもあります。





名前
年
組

木見